

芸術と文化の都 盛岡

古くから高い文化をほこる盛岡は、様々な分野で多くの芸術家たちを生み出してきました。映画祭や日本で唯一の文士劇など多彩な活動が繰り広げられる一方で、歴史ある民俗芸能が受け継がれ、伝統と前衛が交差する街。

「芸術と文化の都盛岡」

歴史文化・芸術

1.盛岡城跡

三戸（青森県三戸町）に拠点をおいていた南部信直（なんぶのぶなお）は、豊臣秀吉の奥州仕置（おうしゅうしおき）により、1590年（天正18）岩手郡などの領地7郡の領有が承認されました。信直は盛岡城築城に着手し、1597年（慶長2）には鋤初（起工式）をしたと伝えられ、翌年の許可を受けて本格的な築城を開始しました。

2.志波城古代公園

歴史上中央政府が築いた日本最北の城は古代の志波城といわれています。盛岡が日本北限の築城の地に選ばれたのは、当時米作の北限が盛岡だと考えられていたからだと思われます。

3.盛岡八幡宮

南部氏は、もともと八幡神を氏神と仰ぐ家柄でした。今から約800年ほど昔に南部の藩祖である南部光行公が、居城を三戸から不来方に移す際に、不来方の豪族である日戸氏が代々信仰していた鳩森八幡宮を修復し、この地方の守護神として城内におまつりし、氏神と仰ぎました。

盛岡の先人たち

歴史に名を残した数多くの盛岡ゆかりの先人たち。
早くから未来を見据え、大きな足跡を残した先人たちをご紹介します。

日本式速記術の創始者



田鎖 綱紀

(たくさり こうき)

日本初の平民宰相



原 敬

(はら たかし)

日本を代表する国際人



新渡戸 稲造

(にとべ いなぞう)

日本初の外国語の日本通史



原 勝郎

(はら かつろう)

盛岡出身の海軍大臣・首相

アイヌ語研究の第一人者

望郷と漂泊の天才詩人

詩・童話・教育・農業・科学
などの多彩な活動

米内 光政

(よない みつまさ)



金田一 京助

(きんだいち きょうすけ)



石川 啄木

(いしかわ たくぼく)



宮沢 賢治

(みやざわ けんじ)

北上川・盛岡駅周辺

気の向くまま歩けば立ち寄り所がいっぱい

盛岡駅に降り立ったら、まず西口に建つ「マリオス」の展望室に登ることをおすすめする。眼下に山と川に囲まれ、北国の澄んだ光の中でキラキラ輝いている盛岡の街がひとつかみで、旅情をかきたてる素敵なプロローグになるだろう。

駅前の旭橋を渡れば、「イーハトーブアベニュー材木町」だ。宮沢賢治ゆかりの民芸品店をはじめ陶器、木綿、漆器、木工家具などていねいな仕事を重んじる店が軒を並べ、最近は骨董店やミニギャラリーも通りに趣を添えている。

土曜日の夕方は「よ市」が開催され、宮沢賢治をテーマに作られた町並みが、ローカル色あふれる商い市に様変わりして賑やかさを増す。通りに飾られた賢治のモニュメントも一緒に楽しんでいるようだ。

開運橋を渡り、真っ直ぐ進んで行けば盛岡一番の繁華街・大通りに至る。ショッピングはもちろん、見る、食べるなど好奇心をくすぐる立ち寄り所がいっぱい。5 館 14 スクリーンもの映画館や、名物の冷麺店などもチェックしてみたいポイント。

ぶらり気の向くままに歩けば、盛岡のいろんな顔を発見できる。



◎ 啄木新婚の家

新婚の啄木が明治 38 年から 3 週間ほど暮らした家で、武家屋敷としても貴重。随筆『我が四畳半』にこのころのことが書かれている。



◎ 盛岡駅前広場の啄木歌碑

盛岡駅に降り立つと、「ふるさとの山に向かひて 言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな」という啄木の歌が迎えてくれる。



◎ 大通り

盛岡のメインストリート。映画館通り、菜園通りへと通じ、遊ぶ、食べる、飲むが充実した賑やかな通り。ちょっと小路に入ると個性的な店も。



◎ 岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館

明治44年(1911)、辰野金吾・葛西萬司建築事務所の設計で建てられた旧盛岡銀行で、国の重要文化財。赤いレンガに白い花崗岩の帯が際立つ美しい外観が目を引く。ライトアップされると建築美が一段と鮮やかに浮かび上がる。※平成28年3月まで復旧工事中



◎ もりおか啄木・賢治青春館

盛岡は石川啄木と宮沢賢治が青春時代を過ごした街。二人の若き日と、盛岡の街を紹介する常設展のほか、2階の展示ホールでは多彩な企画展が開催されている。

概要をこれまで